

1993年 大会記録

国際

◇ワールドカップ=男子フリースタイル（4月2～3日、米国・チャタヌーガ）

5位（4敗）

1回戦 日本● [2-8] ○キューバ

2回戦 日本● [1-9] ○ロシア

3回戦 日本● [0-10] ○米国

4回戦 日本● [3-7] ○カナダ

《個人順位》▼48kg級 佐伯豊（日大）=5位、▼52kg級 佐藤公一（日体大）=4位、▼57kg級 花田秀実（自衛隊）=5位、▼62kg級 和田貴広（国士舘大）=4位、▼68kg級 赤石光輝（ユニマツト）=5位、▼74kg級 平塚洋充（日大大学院）=5位、▼82kg級 横山秀和（日体大）=3位、▼90kg級 藤田和之（新日本プロレス職）、▼100kg級 浅沼俊幸（自衛隊）=4位、▼130kg級 小幡弘之（警視庁）=3位

◇アジア選手権=男子フリースタイル（4月16～18日、モンゴル・ウランバートル）

▼48kg級 佐伯豊（日大）=5位、▼52kg級 佐藤公一（日体大）=一失、▼57kg級 花田秀実（自衛隊）=4位、▼62kg級 和田貴広（国士舘大）=2位、▼68kg級 安達巧（トヨタビスタ東京）=3位、▼74kg級 平塚洋充（日大大学院）=5位、▼82kg級 横山秀和（日体大）=5位、▼90kg級 藤田和之（日大）=5位、▼100kg級 浅沼俊幸（自衛隊）=6位、▼130kg級 小幡弘之（警視庁）=5位

◇アジア選手権=グレコローマン（4月23～25日、広島・東広島運動公園体育館）

▼48kg級 佐々木昌常（自衛隊）=3位、▼52kg級 内浩二（自衛隊）=2位、▼57kg級 西見健吉（自衛隊）=8位、▼62kg級 元木康年（自衛隊）=5位、▼68kg級 森巧（自衛隊）=3位、▼74kg級 伊藤広道（自衛隊）=2位、▼82kg級 向井孝博（ヤマサン）=2位、▼90kg級 森山泰年（自衛隊）=3位、▼100kg級 近藤務（自衛隊）=6位、▼130kg級 奈良英則（警視庁）=4位

◇ドイツ女子国際大会（4月24～25日、ドイツ・ドルトムント）

《シニア》▼47kg級 吉村祥子（スポーツ東急）=優勝、田中真由美（自衛隊）=2位、▼53kg級 川崎明美（自衛隊）=優勝、▼57kg級 田村あかね（代々木クラブ）=4位、福原邦子（京樽）=5位、▼61kg級 三田寺由香（スポーツ東急）=2位、高木亜由美（リ

プレ中京女大) = 3位、▼65kg 級 飯島晶子 (京樽) = 優勝、中井みほ (平和台SS) = 一失、▼70kg 級 浦野弥生 (京樽) = 優勝

《ジュニア》▼44kg 級 中村恵 (岩手・宮古商高) = 3位、▼48kg 級 小池佐知枝 (群馬・関東学園高) = 2位、▼52kg 級 石田由美 (群馬・関東学園高) = 優勝

◇コンコルド国際大会=男子グレコローマン (5月29~30日、米国・コンコルド)

▼48kg 級 嘉戸洋 (国士舘大) = 3位、▼52kg 級 中森昭平 (広島県教育事業団) = 5位、▼57kg 級 藤本雅志 (徳島・池田高教) = 5位、西島隆 (日体大) = 二失、▼62kg 級 元木康年 (自衛隊) = 二失、田橋治 (長崎・島原高教) = 7位、▼68kg 級 三宅靖志 (東海商船) = 三失、▼74kg 級 有賀浩樹 (日体大) = 7位、▼82kg 級 渡部秀隆 (自衛隊) = 二失、▼100kg 級 山口孝二 (自衛隊) = 4位、▼130kg 級 浜上稔 (福島・好間高教)

◇世界カデット選手権=男子グレコローマン (7月1~4日、ドイツ・ドルトムント)

▼40kg 級=出場なし、▼43 kg 級=出場なし、▼47kg 級 船越聡 (栃木・壬生中) = 二失、▼51kg 級 静信次郎 (栃木・献飼中) = 一失、▼55 kg 級=出場なし、▼60kg 級 谷津正和 (群馬・館林三中) = 一失、▼65kg 級 堂端輪太郎 (北海道・広乗中) = 一失、▼70kg 級 田中孔平 (青森・戸山中) = 一失、▼76kg 級 松田卓也 (愛媛・久米中) = 一失、▼83kg 級 迫田隆行 (大阪・四条畷南中) = 一失、▼95 kg 級=出場なし

◇世界カデット選手権=男子フリースタイル (7月5~8日、ドイツ・デュイスブルグ)

▼40kg 級 浅野宗睦 (岐阜・厚見中) = 二失、▼43kg 級 高瀬将治 (茨城・愛宕中) = 一失、▼47kg 級 野口勝 (鹿児島・鹿屋中) = 二失、▼51kg 級 笥田幸宏 (茨城・愛宕中) = 一失、▼55kg 級 太田亮介 (静岡・焼津港中) = 二失、▼60kg 級 兵藤健司 (群馬・館林二中) = 一失、▼65kg 級 今村吉亜 (群馬・城西中) = 一失、▼70kg 級 浜中和宏 (青森・根城中) = 10位、▼76kg 級 山口泰幸 (千葉・松陰中) = 一失、▼83kg 級 岡田直樹 (大阪・香里中) = 一失、▼95kg 級 矢野通 (東京・京北中) = 一失

◇ポーランド国際大会=男子フリースタイル (7月9~11日、ポーランド・ワルシャワ)

▼48kg 級 丸山祐司 (徳島県協会) = 2位、▼52kg 級 山下忍 (香川県スポーツ振興財団) = 2位、▼57kg 級 角地山豊 (警視庁) = 3位、▼62kg 級 鈴木信行 (秋田市役所) = 8位、▼68kg 級 吉本収 (ヤマサン) = 3位、▼74kg 級 太田拓弥 (日体大助) = 6位、▼82kg 級 伊藤敦 (京都府体協) = 6位、▼90kg 級 浅井努 (京都府体協) = 5位、▼100kg 級 安田紀久雄 (山梨・韮崎工高教)、▼130kg 級 小幡弘之 (警視庁) = 2位

◇世界ジュニア選手権=女子 (7月16~18日、オーストリア・ゲチス)

▼40kg級 渡辺朋子（リプレ中京女大）＝2位、▼44kg級 清水美里（マイスポーツ）＝優勝、▼48kg級 上林美穂（愛知・桜丘高）＝優勝、▼52kg級 石田由美（群馬・関東学園高）＝優勝、▼56kg級 木村こず恵（東洋大）＝優勝、▼65kg級 山崎真弓（東京・安部学院高）＝6位

◇世界エスポアール選手権（7月19～25日、ギリシャ・アテネ）

《男子フリースタイル》▼48kg級 戸井田昌教（国士舘大）＝6位、▼52kg級 石田隆（日体大）＝8位、▼57kg級 横瀬二郎（国士舘大）＝11位、▼62kg級 伊藤克佳（茨城・霞ヶ浦高）＝11位、▼68kg級 天谷満博（早大）＝22位、▼74kg級 木村洋介（専大）＝14位、▼82kg級 川合達夫（日体大）＝9位、▼90kg級 小菅裕司（日体大）＝16位、▼100kg級 瀬川浩寿（山梨学院大）＝9位、▼130kg級 滝口徹（国士舘大）＝6位

《男子グレコローマン》▼48kg級 中村吉元（日体大）＝10位、▼52kg級 小高浩二（山梨学院大）＝16位、▼57kg級 村上和隆（日体大）＝18位、▼62kg級 米田哲也（日体大）＝16位、▼68kg級 菅生洋樹（日体大）＝17位、▼74kg級 有賀浩樹（日体大）＝17位、▼82kg級 高木章夫（日体大）＝12位、▼90kg級 佐藤亘（国士舘大）＝14位、▼100kg級 篠崎正二（日体大）＝13位、▼130kg級 坂下昇（専大）＝12位

◇世界選手権＝女子（8月7～8日、ノルウェー・ラービク）

▼44kg級 吉村祥子（スポーツ東急）＝優勝、▼47kg級 田中真由美（自衛隊）＝5位、▼50kg級 遠藤美子（東洋大職）＝3位、▼53kg級 川崎明美（自衛隊）＝2位、▼57kg級 福原邦子（京樽）＝7位、▼61kg級 三田寺由香（スポーツ東急）＝5位、▼65kg級 飯島晶子（京樽）＝6位、▼70kg級 浦野弥生（京樽）＝優勝、▼75kg級 宮崎未樹子（住友海上火災）＝2位

◇フィンランド国際大会＝男子グレコローマン（8月14～15日、フィンランド・ヘルシンキ）

▼52kg級 朝比奈巖（アイシン精機）＝6位、▼57kg級 藤本雅志（徳島・池田高教）＝3位、▼62kg級 出口泰三（和歌山県立体育館）＝二失、▼68kg級 木村好男（警視庁）＝4位、▼74kg級 今村浩之（クリナップ）＝4位、▼82kg級 佐々木秀幸（香川・飯山中教）、▼90kg級 岩渕利則（警視庁）＝二失、▼130kg級 奈良英則（警視庁）＝3位

◇世界選手権＝男子フリースタイル（8月25～28日、カナダ・トロント）

▼48kg級 佐伯豊（日大）＝一失、▼52kg級 笹山秀雄（自衛隊）＝一失、▼57kg級 花田秀実（自衛隊）＝一失、▼62kg級 和田貴広（国士舘大）＝一失、▼68kg級 安達巧（トヨタビスタ東京）＝7位、▼74kg級 平塚洋充（日大大学院）＝一失、▼82kg級 横山秀

和（日体大）＝一失、▼90kg級 藤田和之（新日本プロレス職）＝一失、▼100kg級 浅沼俊幸（自衛隊）＝一失、▼130kg級 小幡弘之（警視庁）＝一失

◇世界選手権＝男子グレコローマン（9月16～19日、スウェーデン・ストックホルム）

▼48kg級 佐々木昌常（自衛隊）＝7位、▼52kg級 中森昭平（広島県教育事業団）＝6位、▼57kg級 花原大介（警視庁）＝7位、▼62kg級 西口茂樹（日体大助）＝一失、▼68kg級 森巧（自衛隊）＝10位、▼74kg級 伊藤広道（自衛隊）＝二失、▼82kg級 渡部秀隆（自衛隊）＝二失、▼90kg級 森山泰年（自衛隊）＝二失、▼100kg級 野々村孝（香川県スポーツ振興財団）＝一失、▼130kg級 奈良英則（警視庁）＝一失

国内

◇アジア選手権代表選考会（3月17～19日、東京・夢の島体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 佐伯豊（日大）、▼52kg級 佐藤公一（日体大）、▼57kg級 花田秀実（自衛隊）、▼62kg級 和田貴広（国士舘大）、▼68kg級 安達巧（日体大助）、▼74kg級 平塚洋充（日大大学院）、▼82kg級 横山秀和（日体大）、▼90kg級 藤田和之（日大）、▼100kg級 浅沼俊幸（自衛隊）、▼130kg級 小幡弘之（警視庁）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 佐々木昌常（自衛隊）、▼52kg級 内浩二（自衛隊）、▼57kg級 西見健吉（自衛隊）、▼62kg級 元木康年（自衛隊）、▼68kg級 森巧（自衛隊）、▼74kg級 伊藤広道（自衛隊）、▼82kg級 向井孝博（ヤマサン）、▼90kg級 森山泰年（自衛隊）、▼100kg級 近藤務（自衛隊）、▼130kg級 奈良英則（警視庁）

◇全国高校選抜大会（3月29～31日、新潟・新潟市体育館）

《学校対抗戦》[1] 茨城・霞ヶ浦（6年連続6度目）、[2] 群馬・関東学園、[3] 秋田・秋田商、栃木・足利工大付

《個人戦優勝者》▼46kg級 榎沢智治（栃木・足利工大付）、▼50kg級 長尾勇氣（宮崎・宮崎工）、▼54kg級 小林武史（茨城・霞ヶ浦）、▼58kg級 山口純（茨城・霞ヶ浦）、▼63kg級 伊東克佳（茨城・霞ヶ浦）、▼68kg級 大関敏寛（秋田・秋田経法大付）、▼74kg級 中谷尚志（徳島・徳島東工）、▼115kg級 今村雄介（群馬・関東学園）

◇JOC杯ジュニアオリンピック（5月2～4日、神奈川・日大農獣医学部体育館）

《男子エスポアール・フリースタイル優勝者》▼48kg級 戸井田昌教（国士舘大）、▼52kg級 石田隆（日体大）、▼57kg級 横瀬二郎（国士舘大）、▼62kg級 伊藤克佳（茨城・

霞ヶ浦高)、▼68kg級 天谷満博(早大)、▼74kg級 木村洋介(専大)、▼82kg級 川合達夫(日体大)、▼90kg級 小菅裕司(日体大)、▼100kg級 瀬川浩寿(山梨学院大)、▼130kg級 滝口徹(国士舘大)

《男子エスポール・グレコローマン優勝者》▼48kg級 中村吉元(日体大)、▼52kg級 小高浩二(山梨学院大)、▼57kg級 村上和隆(日体大)、▼62kg級 米田哲也(日体大)、▼68kg級 菅生洋樹(日体大)、▼74kg級 有賀浩樹(日体大)、▼82kg級 高木章夫(日体大)、▼90kg級 佐藤亘(国士舘大)、▼100kg級 篠崎正二(日体大)、▼130kg級 坂下昇(専大)

《男子ジュニア・フリースタイル優勝者》▼46kg級 大門龍一(群馬・関東学園高)、▼50kg級 長尾勇氣(宮崎・宮崎工高)、▼54kg級 北林善之(東洋大)、▼58kg級 山口純(茨城・霞ヶ浦高)、▼63kg級 宮田和幸(茨城・土浦日大高)、▼68kg級 織山昭仁(日体大)、▼74kg級 小倉哲志(茨城・霞ヶ浦高)、▼81kg級 小室誠一(国士舘大)、▼88kg級 今村雄介(群馬・関東学園高)、▼115kg級 中沢直樹(茨城・霞ヶ浦高)

《男子ジュニア・グレコローマン優勝者》▼46kg級 玉川正人(福島・田島高)、▼50kg級 豊田雅俊(徳島・穴吹高)、▼54kg級 田崎教大(茨城・土浦日大高)、▼58kg級 荒木哲郎(神奈川・日大藤沢高)、▼63kg級 宮田和幸(茨城・土浦日大高)、▼68kg級 倉本忠(滋賀・日野高)、▼74kg級 由井賢次郎(大阪・高石高)、▼81kg級 矢野倍達(奈良・添上高)、▼88kg級 佐藤亘(国士舘大)、▼115kg級 山内卓生(岩手・専大北上高)

◇東日本学生リーグ戦(5月11~14日、東京・駒沢屋内球技場)

《順位》[1] 日体大(15年連続17度目)、[2] 国士大、[3] 山梨学院大、[4] 日大、[5] 専大、[6] 東洋大、[7] 大東大、[8] 中大

◇西日本学生春季リーグ戦(5月29~30日、大阪・大阪府立体育会館第2体育館)

《順位》[1] 福岡大(3季ぶり15度目)、[2] 近大、[3] 徳山大、[4] 同志社大、[5] 桃山学院大、[6] 南九州大

◇全日本社会人選手権(5月15~16日、愛知・アイシン精機)

《団体戦優勝チーム》▼実業団 アイシン精機、▼クラブ 警視庁クラブ

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 丸山祐司(徳島県協会)、▼52kg級 山下忍(香川ク)、▼57kg級 角地山豊(警視庁)、▼62kg級 鈴木信行(秋田市役所)、▼68kg級

級 吉本収（ヤマサン）、▼74kg 級 太田拓弥（日体大助手）、▼82kg 級 伊藤敦（京都ク）、▼90kg 級 浅井努（京都ク）、▼100kg 級 安田紀久雄（山梨ク）、▼130kg 級 小幡弘之（警視庁）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg 級 大城正一（東洋紙業）、▼52kg 級 朝比奈巖（アイシン精機）、▼57kg 級 藤本雅志（徳島県協会）、▼62kg 級 出口泰三（和歌山県協会）、▼68kg 級 木村好男（警視庁）、▼74kg 級 今村浩之（クリナップ）、▼82kg 級 佐々木秀幸（香川ク）、▼90kg 級 岩渕利則（警視庁）、▼100kg 級 野々村孝（香川ク）、▼130kg 級 奈良英則（警視庁）

◇全日本女子選手権（5月30日、東京・スポーツ会館）

《優勝者》▼44kg 級 吉村祥子（スポーツ東急）、▼47kg 級 田中真由美（自衛隊）、▼50kg 級 遠藤美子（東洋大職）、▼53kg 級 川崎明美（自衛隊）、▼57kg 級 栄涼子（京樽ク）、▼61kg 級 三田寺由香（スポーツ東急）、▼65kg 級 飯島晶子（京樽）、▼70kg 級 浦野弥生（京樽）、▼75kg 級 新谷翠（吹田市民教室）、▼75kg 以上級 三宅由美（リプレ中京女大）

◇東日本学生春季新人戦（6月9～11日、東京・駒沢屋内球技場）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg 級 戸井田昌教（国士舘大）、▼52kg 級 勝目力也（山梨学院大）、▼57kg 級 橋本拓明（日体大）、▼62kg 級 飯塚光洋（山梨学院大）、▼68kg 級 織山昭仁（日体大）、▼74kg 級 山下哲生（専大）、▼82kg 級 川合達夫（日体大）、▼90kg 級 ルイス・バレラ（日大）、▼100kg 級 篠崎正二（日体大）、▼130kg 級 笠井雅史（国士舘大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg 級 狩野達治（東洋大）、▼52kg 級 中村吉元（日体大）、▼57kg 級 村上和隆（日体大）、▼62kg 級 山川傑（大東大）、▼68kg 級 林健太郎（日体大）、▼74kg 級 横山雅信（日大）、▼82kg 級 木村洋介（専大）、▼90kg 級 島谷正樹（日大）、▼100kg 級 梁田紀幸（東洋大）、▼130kg 級 坂下昇（専大）

◇全国中学生選手権（6月12～13日、茨城・茨城県立スポーツセンター）

▼35kg 級 松永共広（静岡・焼津）、▼40kg 級 浅野宗睦（岐阜・厚見）、▼43kg 級 高瀬将治（茨城・愛宕）、▼47kg 級 野口勝（鹿児島・鹿屋）、▼51kg 級 笥田幸宏（茨城・愛宕）、▼55kg 級 太田亮介（静岡・焼津港）、▼60kg 級 兵藤健司（群馬・館林二）、▼65kg 級 今村吉亜（群馬・城西）、▼70kg 級 浜中和宏（青森・根城）、▼76kg 級 山口泰幸（千葉・松陰）、▼83kg 級 岡田直樹（大阪・香里）、▼95kg 級 矢野通（東京・京北）

◇世界選手権代表選考会（6月23～25日、東京・夢の島体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 佐藤謙二（国士舘大）、▼52kg級 笹山秀雄（自衛隊）、▼57kg級 花田秀実（自衛隊）、▼62kg級 坪井勇（男山酒造）、▼68kg級 太田拓弥（日体大助）、▼74kg級 平塚洋充（日大大学院）、▼82kg級 横山秀和（日体大）、▼90kg級 藤田和之（新日本プロレス職）、▼100kg級 野々村孝（香川県スポーツ振興財団）、▼130kg級 小幡弘之（警視庁）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 佐々木昌常（自衛隊）、▼52kg級 中森昭平（広島県教育事業団）、▼57kg級 花原大介（警視庁）、▼62kg級 西口茂樹（日体大助）、▼68kg級 森巧（自衛隊）、▼74kg級 伊藤広道（自衛隊）、▼82kg級 渡部秀隆（自衛隊）、▼90kg級 森山泰年（自衛隊）、▼100kg級 野々村孝（香川県スポーツ振興財団）、▼130kg級 鈴木賢一（読売千葉広告社）

◇西日本学生新人戦（6月26～27日、大阪・堺市初芝体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 細田和宏（南九州大）、▼52kg級 渡辺幸二（福岡大）、▼57kg級 酒井徹治（福岡大）、▼62kg級 山中紅斗（福岡大）、▼68kg級 城島匡峰（福岡大）、▼74kg級 小林寛和（徳山大）、▼82kg級 上田智路（福岡大）、▼90kg級 橋野勇（福岡大）、▼130kg級 三好誠（京都産業大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 松尾大樹（福岡大）、▼52kg級 山田靖浩（徳山大）、▼57kg級 酒井徹治（福岡大）、▼62kg級 山中紅斗（福岡大）、▼68kg級 城島匡峰（福岡大）、▼74kg級 馬場幸治（福岡大）、▼82kg級 土田知路（福岡大）、▼90kg級 橋野勇（福岡大）、▼130kg級 佐藤京夏（桃山学院大）

◇世界選手権代表選考プレーオフ（7月2日、山形・MSTセンター）

《男子フリースタイル勝者》▼48kg級 佐伯豊（日大）、▼52kg級 笹山秀雄（自衛隊）、▼62kg級 和田貴広（国士舘大）、▼68kg級 安達巧（日体大助）、▼100kg級 浅沼俊幸（自衛隊）

《男子グレコローマン勝者》▼52kg級 中森昭平（広島県教育事業団）、▼57kg級 花原大介（警視庁）、▼62kg級 西口茂樹（日体大助）、▼82kg級 渡部秀隆（自衛隊）、▼100kg級 野々村孝（香川県スポーツ振興財団）、▼130kg級 奈良英則（警視庁）

◇インターハイ（8月1～4日、栃木・足利市民体育館）

《学校対抗戦》[1] 茨城・霞ヶ浦（4年連続7度目）、[2] 群馬・関東学園、[3] 栃

木・足利工大付、秋田・秋田商

《個人戦優勝者》▼46kg級 榎沢智治（栃木・足利工大付）、▼50kg級 長尾勇気（宮崎・宮崎工）、▼54kg級 田南部力（北海道・岩見沢農）、▼58kg級 山口純（茨城・霞ヶ浦）、▼63kg級 伊藤克佳（茨城・霞ヶ浦）、▼68kg級 大橋理秀（大阪・吹田）、▼74kg級 中谷尚志（徳島・徳島東工）、▼115kg級 吉田清太郎（秋田・秋田商）

◇全国高校生グレコローマン選手権（8月12～14日、大阪・堺市金岡公園体育館）

《優勝者》▼46kg級 玉川正人（福島・田島）、▼50kg級 豊田雅俊（徳島・穴吹）、▼54kg級 小林武史（茨城・霞ヶ浦）、▼58kg級 葭田隆夫（福岡・北九州）、▼63kg級 辻本将幸（京都・南京都）、▼68kg級 倉本忠（滋賀・日野）、▼74kg級 湯田善彦（福島・田島）、▼81kg級 矢野倍達（奈良・添上）、▼87kg級 今村雄介（群馬・関東学園）、▼115kg級 中沢直樹（茨城・霞ヶ浦）

◇全日本学生選手権（8月29日～9月1日、神奈川・横浜文化体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 山口譲司（国士舘大）、▼52kg級 佐藤公一（日体大）、▼57kg級 星政宏（日体大）、▼62kg級 市口勇志（日大）、▼68kg級 小柴健二（日体大）、▼74kg級 片山貴光（日体大）、▼82kg級 横山秀和（日体大）、▼90kg級 ルイス・バレラ（日大）、▼100kg級 茂野充宏（国士舘大）、▼130kg級 中川誠一（日体大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 嘉戸洋（国士舘大）、▼52kg級 勝目力也（山梨学院大）、▼57kg級 西島隆（日体大）、▼62kg級 菅生洋樹（日体大）、▼68kg級 宮本健二（日体大）、▼74kg級 片山貴光（日体大）、▼82kg級 高木章夫（日体大）、▼90kg級 吉田幸司（日体大）、▼100kg級 茂野充宏（国士舘大）、▼130kg級 中川誠一（日体大）

◇全日本学生王座決定戦（10月1～2日、東京・駒沢屋内球技場）=団体戦の勝ち点方式

《順位》[1] 日体大（4年連続16度目）、[2] 日大、[3] 国士舘大

◇西日本学生選手権（10月1～3日、大阪・堺市金岡公園体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 山端慎也（同志社大）、▼52kg級 酒井徹治（福岡大）、▼57kg級 請川佳記（福岡大）、▼62kg級 佐藤勝彦（徳山大）、▼68kg級 法花智伸（徳山大）、▼74kg級 馬場幸治（福岡大）、▼82kg級 竹内一政（南九州大）、▼90kg級 楠健二（徳山大）、▼130kg級 福島英治（福岡大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 松尾大樹（福岡大）、▼52kg級 小川完治（徳山大）、▼57kg級 請川佳記（福岡大）、▼62kg級 越智雅史（福岡大）、▼68kg級 奥田真二（同志社大）、▼74kg級 馬場幸治（福岡大）、▼82kg級 馬場博隆（福岡大）、▼90kg級 三村勝彦（福岡大）、▼130kg級 福島英治（福岡大）

◇全日本大学グレコローマン選手権（10月14～15日、東京・駒沢体育館）

《優勝者》▼48kg級 中村吉元（日体大）、▼52kg級 嘉戸洋（国士舘大）、▼57kg級 西島隆（日体大）、▼62kg級 市口勇志（日大）、▼68kg級 宮本健二（日体大）、▼74kg級 片山貴光（日体大）、▼82kg級 高木章夫（日体大）、▼90kg級 菅原文太（大東大）、▼100kg級 茂野充宏（国士舘大）、▼130kg級 滝口徹（国士舘大）

《大学対抗得点》[1] 日体大（5年連続5度目）、[2] 国士舘大、[3] 日大

◇国民体育大会（10月25～28日、徳島・池田町総合体育館、貞光中、穴吹町スポーツセンター）

《成年フリースタイル優勝者》▼48kg級 山下忍（香川・香川県庁）、▼52kg級 佐藤公一（秋田・日体大）、▼57kg級 佐々木一郎（香川・香川中央高教）、▼62kg級 和田貴広（鹿児島・国士舘大）、▼68kg級 吉本收（広島・ヤマサン）、▼74kg級 太田拓弥（東京・日体大助）、▼82kg級 原喜彦（新潟・新潟北高教）、▼90kg級 藤田和之（千葉・新日本プロレス職）、▼100kg級 茂野充宏（和歌山・国士舘大）、▼130kg級 小幡弘之（東京・警視庁）

《成年グレコローマン優勝者》▼48kg級 嘉戸洋（島根・国士舘大）、▼52kg級 一色啓雅（和歌山・県教育庁）、▼57kg級 藤本雅志（徳島・池田高教）、▼62kg級 林雄一（新潟・アトラスWC）、▼68kg級 木村好男（東京・警視庁）、▼74kg級 片山貴光（秋田・日体大）、▼82kg級 向井孝博（石川・ヤマサン）、▼90kg級 木下英規（埼玉・自衛隊）、▼100kg級 野々村孝（香川・香川県庁）、▼130kg級 鈴木賢一（千葉・読売千葉広告社）

《少年フリースタイル優勝者》▼46kg級 榎沢智治（栃木・足利工大付）、▼50kg級 長尾勇氣（宮崎・宮崎工）、▼54kg級 田南部力（北海道・岩見沢農）、▼58kg級 山口純（茨城・霞ヶ浦）、▼63kg級 辻本将章（京都・南京都）、▼68kg級 宮田和幸（茨城・土浦日大）、▼74kg級 高橋政治（宮城・東北工大電子工）、▼81kg級 前浦良二（徳島・鳴門工）、▼88kg級 今村雄介（群馬・関東学園）、▼115kg級 早坂雅和（山形・山形商）

《少年グレコローマン優勝者》▼46kg級 桜井優史(香川・)、▼50kg級 豊田雅俊(徳島・穴吹)、▼54kg級 小林武史(茨城・霞ヶ浦)、▼58kg級 平山大輔(徳島・貞光工)、▼63kg級 国見将司(徳島・穴吹)、▼68kg級 倉本忠(滋賀・日野)、▼74kg級 湯田善彦(福島・田島)、▼81kg級 矢野倍達(奈良・添上)、▼88kg級 草間正人(茨城・霞ヶ浦)、▼115kg級 中沢直樹(茨城・霞ヶ浦)

◇全日本大学選手権(11月13~14日、愛知・常滑市体育館)

《優勝者》▼48kg級 佐伯豊(日大)、▼52kg級 佐藤公一(日体大)、▼57kg級 石嶋勇次(山梨学院大)、▼62kg級 和田貴広(国士舘大)、▼68kg級 小柴健二(日体大)、▼74kg級 片山貴光(日体大)、▼82kg級 横山秀和(日体大)、▼90kg級 加藤英之(日体大)、▼100kg級 吉田孝司(日体大)、▼130kg級 中川誠一(日体大)

《大学対抗得点》[1] 日体大(2年連続15度目)、[2] 山梨学院大、[3] 国士舘大

◇全日本女子オープン選手権(11月14日、石川・志賀町総合体育館)

《優勝者》▼44kg級 吉村祥子(スポーツ東急)、▼47kg級 田中真由美(自衛隊)、▼50kg級 遠藤美子(東洋大職)、▼53kg級 川崎明美(自衛隊)、▼57kg級 清水真理子(東洋大)、▼61kg級 宮崎未樹子(住友海上火災保険)、▼65kg級 浦野弥生(京樽)、▼70kg級 山崎真弓(東京・安部学院高)、▼75kg級 上野弘子(盛岡大)、▼75kg以上級=出場なし

◇全国社会人オープン選手権(11月22~23日、神奈川・横浜消防訓練センター)

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 火縄公男(自衛隊)、▼52kg級 小山田秀晴(YAZAKI 沼津)、▼57kg級 飯田泰次(国際証券)、▼62kg級 栄和人(京樽)、▼68kg級 吉田実(MPG)、▼74kg級 外屋敷剛(自衛隊)、▼82kg級 高木博章(西神そごう)、▼90kg級 エリック・ドウス(コスモスペース)、▼100kg級 小玉康二(高知・高知東高教)、▼130kg級 梅田誠幸(アイシン精機)

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級=出場なし、▼52kg級 朝比奈巖(アイシン精機)、▼57kg級 及川文雄(自衛隊)、▼62kg級 西見健吉(自衛隊)、▼68kg級 大城利幸(MPG)、▼74kg級 杉浦貴(自衛隊)、▼82kg級 喜村健作(自衛隊)、▼90kg級 岩渕利則(警視庁)、▼100kg級 神崎源吾(警視庁)、▼130kg級 河村勝(北海道協会)

◇東日本学生秋季新人戦(11月26~28日、東京・駒沢屋内球技場)

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 田岡師範(山梨学院大)、▼52kg級 関川博紀(日体大)、▼57kg級 滝沢越史(日体大)、▼62kg級 大川卓治(専大)、▼68kg級

佐伯敬之（日体大）、▼74kg 級 天谷満博（早大）、▼82kg 級 木村洋介（専大）、▼90kg 級 小菅裕司（日体大）、▼100kg 級 瀬川浩寿（山梨学院大）、▼130kg 級 篠崎正二（日体大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg 級 田岡師範（山梨学院大）、▼52kg 級 狩野達治（東洋大）、▼57kg 級 勝目力也（山梨学院大）、▼62kg 級 菅生洋樹（日体大）、▼68kg 級 永田克彦（日体大）、▼74kg 級 林健太郎（日体大）、▼82kg 級 三原大典（日体大）、▼90kg 級 馬淵賢司（日体大）、▼100kg 級 島谷正樹（日大）、▼130kg 級 篠崎正二（日体大）

◇西日本学生秋季リーグ戦（11月27～28日、大阪・大阪府立体育会館第2体育館）

《順位》[1] 徳山大（2季ぶり7度目）、[2] 同志社大、[3] 福岡大、[4] 近大、[5] 南九州大、[6] 桃山学院大

◇全日本選手権（12月21～23日、東京・代々木競技場第2体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg 級 佐伯豊（日大）、▼52kg 級 笹山秀雄（自衛隊）、▼57kg 級 奥山恵二（ユニデン）、▼62kg 級 和田貴広（国士舘大）、▼68kg 級 小柴健二（日体大）、▼74kg 級 赤石光生（ユニマット）、▼82kg 級 横山秀和（日体大）、▼90kg 級 藤田和之（新日本プロレス職）、▼100kg 級 浅沼俊幸（自衛隊）、▼130kg 級 小幡弘之（警視庁）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg 級 佐々木昌常（自衛隊）、▼52kg 級 中森昭平（広島県教育事業団）、▼57kg 級 西見健吉（自衛隊）、▼62kg 級 栗本秀樹（日泉化学）、▼68kg 級 三宅靖志（東海商船）、▼74kg 級 片山貴光（日体大）、▼82kg 級 向井孝博（ヤマサン）、▼90kg 級 森山泰年（自衛隊）、▼100kg 級 野々村孝（香川県スポーツ振興財団）、▼130kg 級 鈴木賢一（読売千葉広告社）